

幼児のテレビ視聴と録画番組・DVDの利用状況

～2014年6月「幼児視聴率調査」から～

世論調査部 渡辺洋子

2014年6月に実施した「幼児視聴率調査」の結果から、幼児のテレビ視聴と録画番組・DVDの利用状況を報告する。調査は、東京30キロ圏に住む2～6歳の幼児1,000人を調査相手に、6月2日(月)～8日(日)の1週間実施した。

幼児が1日にテレビを見る時間は1時間49分(週平均)。テレビ視聴時間は、2007年以降2時間程度で安定していたが、2012年に初めて2時間を切って減少したまま、前年同様、今回も回復はみられなかった。調査期間中によく見られた番組は、「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」など民放のアニメ番組や、「おかあさんといっしょ」「アニメ おさるのジョージ」など、Eテレの幼児向け番組であった。民放の新番組「妖怪ウォッチ」も26.6%とよく見られ、平日午後6時台後半のテレビ総計の視聴率が前年より増加した。

また、幼児が録画番組やDVDを再生利用している時間は54分(週平均)で前々年(46分)から増加した。徐々にテレビと録画番組・DVDの視聴時間の差が狭まりつつある。

はじめに

2014(平成26)年6月の「全国個人視聴率調査」(対象は全国7歳以上)¹⁾と同時期に実施した、「幼児視聴率調査」の結果を報告する。

調査は6月2日(月)～6月8日(日)の1週間、東京30キロ圏に住む2～6歳の未就学児を対象に実施した。住民基本台帳から層化無

作為2段抽出した幼児1,000人(10人×100地点)に郵送法(15分単位日記式、保護者による代理記入)で行い、有効数は554人(有効率55.4%)であった。有効サンプルの構成は表1のとおりである。

なお、回答している保護者の96%は母親であるため、以下の本文では保護者のことを母親と表記する。

表1 サンプル構成

全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳	保育園児	幼稚園児	未就園児	その他不明
554人	262	292	83	137	165	169	186	291	69	8
100.0%	47.3	52.7	15.0	24.7	29.8	30.5	33.6	52.5	12.5	1.4

1. テレビ全体の視聴状況

(1) テレビ視聴時間

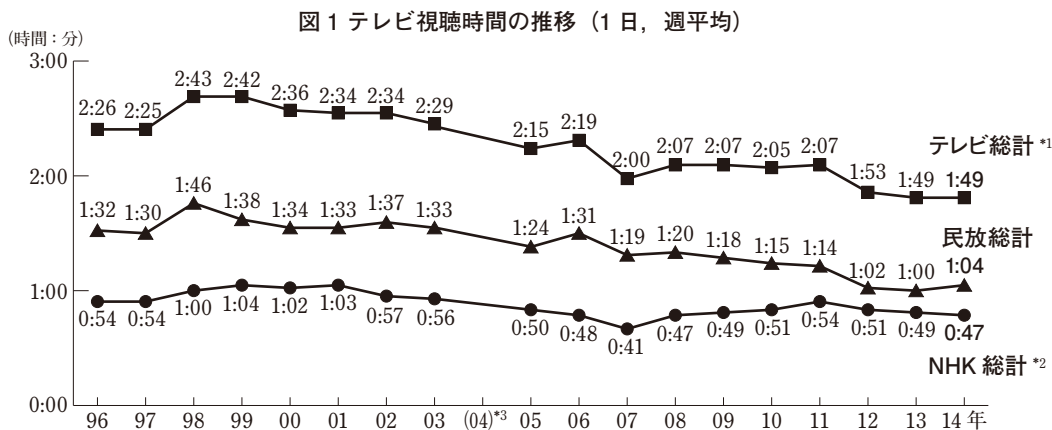
2時間を切ったまま回復せず

今回、2～6歳の幼児のテレビ視聴時間²⁾は、週平均1日あたり1時間49分で前年(1時間49分)と変わらなかった(図1)。これまでの長期的な推移をみると、幼児のテレビ視聴時間は現行方式で調査を行っている1996年以降、1998年(2時間43分)から漸減している。2007年以降は2時間程度の水準で推移していたが、2012年に初めて2時間を切った。今

日も、前年同様、視聴時間の回復はみられなかった。

NHK・民放別には、NHK総計47分(前年49分)に対し、民放総計は1時間4分(前年1時間)であり、いずれも前年と同程度である。NHK総計の内訳をみると、総合6分、Eテレ(教育)40分、衛星計1分で、NHK視聴のうち8割以上をEテレが占める。

男女別・年齢別にテレビ総計の視聴時間を見ると、男女や年齢による大きな差はみられない(表2)。3年間の変化をみると、前年には2歳で視聴時間に減少傾向がみられたが、今回



*1 テレビ総計は、民放総計(民放地上波と民放衛星波)とNHK総計(NHK地上波とNHK衛星波)の計
 *2 NHK総計のうち衛星波は2007年まではBS1・BS2の計、2008～2010年はBS1・BS2・BSハイビジョンの3波計、2011年以降はBS1・BSプレミアムの2波計
 *3 2004年は「幼児視聴率調査」を実施していない

表2 NHK・民放別平均視聴時間(1日、週平均)

(時間:分)

		全体	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
テレビ総計	12年	1:53	1:48	1:56	1:57	1:47	1:46	1:59
	13年	1:49	1:51	1:48	1:39	1:52	1:54	1:49
	14年	1:49	1:46	1:53	2:02	1:48	1:45	1:51
NHK総計	12年	0:51	0:49	0:54	1:00	0:54	0:49	0:44
	13年	0:49	0:47	0:50	0:52	0:51	0:49	0:42
	14年	0:47	0:43	0:49	0:57	0:52	0:46	0:35
民放総計	12年	1:02	0:59	1:04	0:58	0:54	0:57	1:14
	13年	1:00	1:04	0:58	0:47	1:00	1:05	1:07
	14年	1:04	1:03	1:05	1:05	0:56	0:58	1:15

表3 曜日別平均視聴時間（テレビ総計）

(時間：分)

	全体			男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
	14年	13年	12年						
平日	1:48	1:51	1:54	1:46	1:52	2:03	1:48	1:44	1:46
土曜	1:39	1:39	1:46	1:31	1:46	1:57	1:38	1:30	1:39
日曜	2:07	1:54	1:54	2:05	2:09	1:59	2:00	2:03	2:21

は前々年並みに戻った。NHK・民放別にみると、NHK総計の視聴時間は2歳の57分に対し、5・6歳が35分と短めで、年齢が上がるにつれ短くなる傾向である。逆に、民放総計は5・6歳で1時間15分とやや長い。このNHK・民放別の、年齢による視聴時間の傾向はこれまでとほぼ変わらない。

次に、曜日別のテレビ総計の視聴時間をみると(表3)、全体で平日平均は1時間48分、土曜は1時間39分、日曜は2時間7分で、いずれも前年と同程度であった。年齢別にみると、2歳は曜日差が小さいのに対し、3～6歳は日曜がやや長めである。これは、2歳児が3～6歳の幼児に比べ、平日のEテレの帯番組をよく見ており、3～6歳児は日曜の民放人気アニメ番組などをよく見ていることによる。

曜日別のNHK・民放別視聴時間は図2のとおりである。平日はNHK総計と民放総計が

それぞれ1時間弱と同程度である。土曜・日曜はNHKの視聴時間が短くなる一方、民放は特に日曜で視聴時間が長くなり、日曜はNHK総計18分に対して、民放総計が1時間49分と両者の差が開く。

(2) 幼児と母親の視聴時間の関連

幼児のテレビ視聴に影響が大きい母親の視聴時間との関係を見ていく。本調査では、付帯質問で母親の平日1日あたりのテレビ視聴時間を選択肢で尋ねている。これまでの幼児視聴率調査などから、幼児の視聴時間は、母親の視聴時間やテレビの見せ方が影響しているという知見が得られている³⁾。今回の結果でも、母親の視聴時間が3時間以上の「長時間」層では、幼児の視聴時間が2時間53分と長めで、母親の視聴時間が2時間未満の「短時間」層では、幼児の視聴時間が1時間13分と短かった(表4)。

母親の視聴時間の長期推移をみると(図3)、2005～2007年、2011～2013年に動きがみられる。「長時間」層の割合は長期的に漸減しており、2007年に30%を切って今回は25%となった。「短時間」層は2006年に40%を超え、それ以降45%前後で推移していたが、2012年に再び増加して半数を超えた。今回は前年と同程

図2 曜日別 NHK・民放別の平均視聴時間

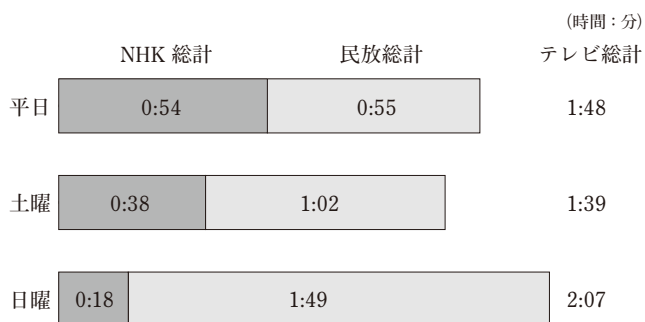


表4 母親の視聴時間別にみた幼児の視聴時間
(テレビ総計, 1日, 週平均)

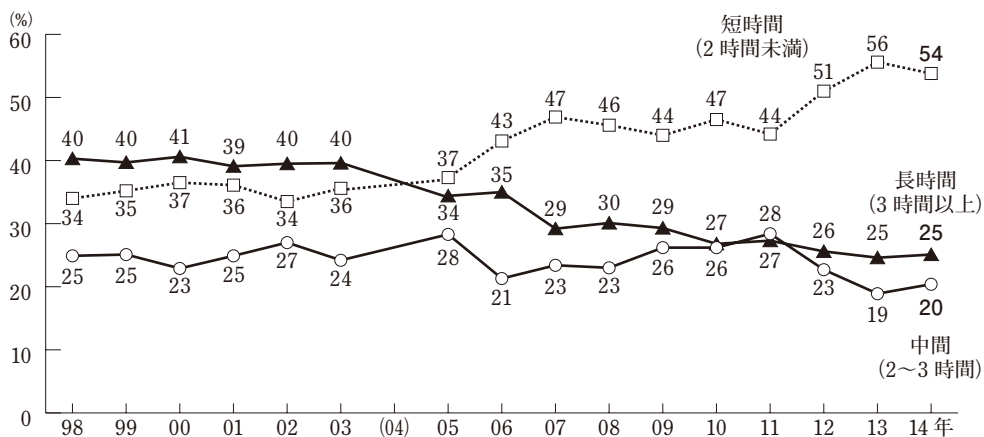
	(時間:分)			
	全体	短時間 (2時間未満)	中間 (2~3時間)	長時間 (3時間以上)
12年	1:53	1:18	1:57	3:01
13年	1:49	1:16	2:04	2:56
14年	1:49	1:13	2:12	2:53

14年のサンプル数 298人 113人 139人

表5 局別週間接触者率(年齢別)

	(%)				
	全体	2歳	3歳	4歳	5・6歳
テレビ総計	92.1	96	96	89	91
NHK 総計	78.7	84	85	78	71
総合	28.0	28	25	27	31
Eテレ	70.8	75	78	73	60
NTV	56.1	57	57	53	59
朝日	61.9	46	64	62	68
TBS	23.3	23	20	22	28
東京	46.9	27	38	49	62
フジ	64.4	60	64	61	70

図3 母親の視聴時間の推移



度で54%だった。

幼児の視聴時間の減少は、2007年、2012年にみられ、その前後で母親の「長時間」層の減少や「短時間」層の増加が起きていることがわかる。母親の視聴時間の減少が、幼児の視聴時間の長期的な減少の要因の1つとなっていると考えられる。

(3) 最もよく見るチャンネルはEテレ

次に、調査を実施した1週間に、少しでも(15分以上) テレビを見た幼児の割合(週間接触者率)をみてる(表5)。テレビ総計の週間接

触者率は92.1%で前年(94.8%)と同程度であるが、前々年(95.3%)と比べると減少している。局別にみると、Eテレが70.8%と最も高く、次いでフジテレビ、テレビ朝日、NTVの順である。年齢別にみると、2~4歳ではEテレが70%以上で最も高い。一方、5・6歳ではEテレの接触者率が低くなり、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京、Eテレが60~70%と同程度で並んでいる。

表6に2000年からの各局の週間接触者率の推移を示した。これをみると、いずれの局も減少しており、中でもTBSは59%から23%

表6 局別週間接触者率の推移

(%)

	2000	01	02	03	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14年
総合	35	32	38	30	28	29	24	30	24	25	24	30	31	28
Eテレ	90	85	89	88	84	78	80	80	81	77	81	73	74	71
NTV	71	64	69	71	62	65	57	54	54	55	54	58	49	56
朝日	80	82	80	79	78	75	69	66	71	62	69	57	57	62
TBS	59	60	66	54	54	58	44	47	39	37	34	28	24	23
東京	86	83	82	78	75	68	61	63	66	59	55	47	42	47
フジ	72	81	79	79	75	74	74	77	76	67	69	64	61	64

(整数値で比較)

表7 局別時間帯別平均視聴率 (週平均)

(%)

時間帯*	総合			Eテレ			NTV			朝日			TBS			東京			フジ		
	12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14	12	13	14年
午前	0.9	0.8	0.7	6.2	6.1	5.7	1.2	0.9	1.4	0.6	0.7	1.2	0.4	0.3	0.3	0.8	0.7	0.6	1.0	1.4	1.1
午後	0.2	0.3	0.2	3.4	3.4	3.4	0.6	0.7	0.9	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.4	0.4	0.4
夜間	0.7	0.6	0.5	1.4	1.2	1.4	2.2	2.1	2.4	2.0	1.7	1.4	0.5	0.6	0.5	1.5	0.9	1.2	2.9	2.7	2.5
1日	0.6	0.6	0.5	3.8	3.6	3.6	1.3	1.2	1.6	0.9	0.8	0.9	0.3	0.3	0.3	0.8	0.6	0.6	1.4	1.5	1.3

* 午前：前5:00～後0:00 午後：後0:00～後6:00 夜間：後6:00～前0:00 1日：前5:00～前0:00

テレビ東京は86%から47%へと減少幅が大きい。Eテレは、2006年から8割前後の水準で推移していたが、2012年以降は減少して70%台となっている。

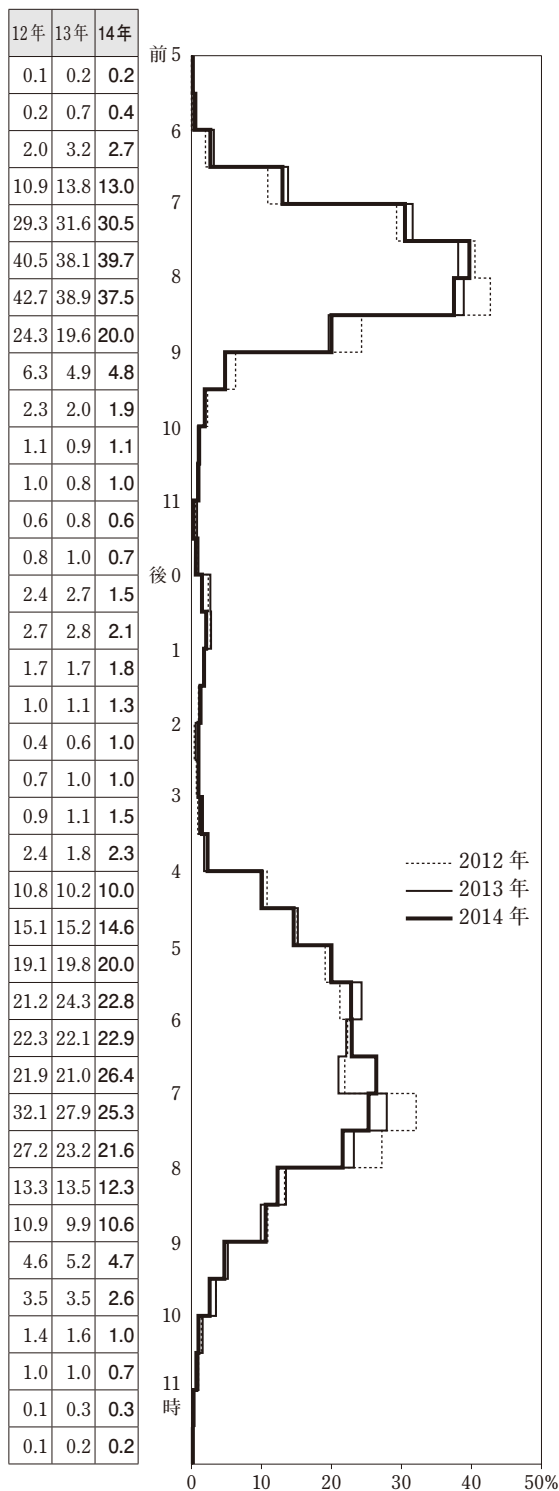
NHK・民放各局別の時間帯別平均視聴率をみると(表7)、Eテレは1日の平均で3.6%と最もよく見られ、午前(5.7%)と午後(3.4%)の時間帯によく見られている。一方、夜間はフジテレビ(2.5%)とNTV(2.4%)が高めである。

(4) 平日は午後6時台で増加、7時台は減少

幼児の平日1日のテレビ視聴状況を30分ごとに時間を追って、平均視聴率をグラフにしたものが図4である。幼児がテレビをよく見ている時間は、午前6時30分～9時と、午後4時～9時である。この時間帯は朝夕ともに幼

児・子ども向けの番組やアニメ番組などが多く放送されているが、朝の時間帯では、前々年と比較して午前8時台の視聴率が減少傾向にある。夕方から夜間は、午後6時30分から7時で前年と比べて増加し、逆に午後7時台では前々年と比べて減少している。午後6時30分から7時までの視聴率の増加は、金曜のこの時間帯にテレビ東京で放送している新番組「妖怪ウォッチ」⁴⁾が26.6%と非常に高い視聴率だったことから、金曜午後6時30分から7時のテレビ総計の視聴率が前年18.8%から今回40.3%に増加し、この影響で平日平均の視聴率も増加したためである。午後7時台の視聴率の減少は、主にこの時間帯に放送していた子ども向けアニメ番組の放送本数が減少した⁵⁾ことが影響したと考えられる。

図4 テレビ総計の30分ごとの平均視聴率（平日）



(5) 視聴率高位に新番組が登場

NHK・民放全体で幼児によく見られた番組は、フジテレビ「サザエさん」(35.3%)、「ちびまる子ちゃん」(32.5%)、テレビ朝日「ドラえもん」(28.1%)、Eテレ「おかあさんといっしょ」(27.6%)などである(表8)。このほか、新番組のテレビ東京「妖怪ウォッチ」(26.6%)や前年、全米ゴルフ中継⁶⁾のため休止していたテレビ朝日「仮面ライダー鎧武/ガイム」(25.3%)も上位に挙がった。

上位3番組の視聴率を5年前と比べると、「サザエさん」09年43.8%→14年35.3%、「ちびまる子ちゃん」09年42.8%→14年32.5%、「ドラえもん」09年32.5%→14年28.1%となっていて、同じ人気番組でも視聴率が減少傾向にある。その結果、2009年以前はほぼ毎回⁷⁾上位に40%以上の番組があったが、2010年以降は40%を超える番組がなくなった。

表8 NHK・民放でよく見られている番組
(放送時間10分以上)

曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率 (%)
日	後6:30	フジ	サザエさん	35.3
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	32.5
金	後7:00	朝日	ドラえもん	28.1
火	前8:00	Eテレ	# おかあさんといっしょ	27.6
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	27.1
金	後6:30	東京	妖怪ウォッチ	26.6
金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	26.2
日	前8:30	朝日	ハピネスチャージプリキュア!	25.7
日	前8:00	朝日	仮面ライダー鎧武/ガイム	25.3
土	前8:25	Eテレ	ムジカ・ピッコリーノ	24.7

#は帯番組で最も視聴率が高い曜日の数値(以下同様)

(6)2歳によく見られているEテレ番組

年齢別によく見られた番組を比べたのが表9である。2歳は、Eテレの平日・土曜の朝の番組をよく見ている。3～4歳になると民放の番組が増えて、上位10番組のうち半数以上を民放の番組が占める。さらに5・6歳になるとほぼ民放の番組となる。年齢が上がるにつれて上位にくる民放の番組が増えるという傾向は例年と変わらない。幼児全体で上位に挙がった「妖怪ウォッチ」は、2～3歳では上位に挙がらないが、4歳で28%、5・6歳で39%とよく見られており、主に高年齢の幼児に人気となっている。

2. NHK テレビの視聴状況

(1)よく見られている朝8時前後の番組

Eテレでよく見られた番組は表10のとおりである。「おかあさんといっしょ」「アニメ おさるのジョージ」「ムジカ・ピッコリーノ」「みいつけた!」など、平日・土曜の午前8時前後の番組が上位となっている。このほか「アニメ はなかつぱ」など、平日午後5時台後半の番組もよく見られている。これら上位のラインナップは前年とほぼ同じである。

総合テレビで最もよく見られた番組は、午前8時放送の連続テレビ小説「花子とアン」

表9 NHK・民放でよく見られている番組（年齢別）（放送時間10分以上）

2歳					3歳				
曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率	曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率
月	前8:00	Eテレ	#おかあさんといっしょ	36	日	後6:30	フジ	サザエさん	34
月	前8:25	Eテレ	#いないいないばあ!	34	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	34
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	34	火	前8:00	Eテレ	#おかあさんといっしょ	33
日	後6:30	フジ	サザエさん	31	火	前7:45	Eテレ	#みいつけた!	33
土	前8:25	Eテレ	ムジカ・ピッコリーノ	30	日	前8:00	朝日	仮面ライダー鎧武/ガイム	28
金	前7:45	Eテレ	#みいつけた!	29	日	前8:30	朝日	ハピネスチャージプリキュア!	28
月金	前8:40	Eテレ	#えいごであそぼ	27	火木	前7:35	Eテレ	#フックブックロー	27
土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	27	金	後7:00	朝日	ドラえもん	27
火	前7:35	Eテレ	#フックブックロー	25	水	前8:25	Eテレ	#いないいないばあ!	25
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	25	金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	25

4歳					5・6歳				
曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率	曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率
土	前8:35	Eテレ	アニメ おさるのジョージ	36	金	後6:30	東京	妖怪ウォッチ	39
日	後6:30	フジ	サザエさん	36	日	後6:30	フジ	サザエさん	38
土	前8:25	Eテレ	ムジカ・ピッコリーノ	33	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	37
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	31	金	後7:00	朝日	ドラえもん	34
日	前8:30	朝日	ハピネスチャージプリキュア!	29	金	後7:30	朝日	クレヨンしんちゃん	32
火	前8:00	Eテレ	#おかあさんといっしょ	28	日	前8:00	朝日	仮面ライダー鎧武/ガイム	28
金	後6:30	東京	妖怪ウォッチ	28	日	前7:30	朝日	烈車戦隊トッキュウジャー	25
金	後7:00	朝日	ドラえもん	28	日	前8:30	朝日	ハピネスチャージプリキュア!	25
土	前8:00	Eテレ	おかあさんといっしょ土曜日	27	木	後7:00	東京	ポケットモンスターXY	23
日	前7:30	朝日	烈車戦隊トッキュウジャー	26	金	前8:00	Eテレ	#おかあさんといっしょ	21
日	前8:00	朝日	仮面ライダー鎧武/ガイム	26					

■ Eテレの番組

表 10 Eテレでよく見られている番組
(放送時間 10 分以上)

曜日	放送時刻	番組名	視聴率 (%)
火	前 8:00	# おかあさんといっしょ	27.6
土	前 8:35	アニメ おさるのジョージ	27.1
土	前 8:25	ムジカ・ピッコリーノ	24.7
火	前 7:45	# みいつけた!	23.1
土	前 8:00	おかあさんといっしょ土曜日	21.6
火	前 8:25	# いないいないばあっ!	21.1
火	前 7:35	# フックブックロー	20.9
木	後 5:30	# アニメ はなかっぱ	19.9
木	後 5:40	# すずめ!キッチン戦隊 クックルン	18.6
火	後 5:50	# フックブックロー	18.2

(6.7%) で、前年の「あまちゃん」(6.8%)、前々年の「梅ちゃん先生」(6.4%) と並び、朝の連続テレビ小説が幼児によく見られた。また、BSプレミアムで最もよく見られた番組は、「ワンワンパッコロ!」(日曜午前8:30)で視聴率は

2.4%であった。

(2) Eテレの幼児・子どもゾーン

Eテレの平日朝の主な番組の視聴率は表11のとおりである。午前6時35分の「にほんごであそぼ」から幼児向けの番組が始まり、それに伴ってEテレの視聴率が伸び始める。「シャキーン!」(前7:00)で10%を超え、それ以降、番組の視聴率が上昇し、「みいつけた!」(前7:45)からは20%を超え、「おかあさんといっしょ」(前8:00)で25.9%に達する。年齢別にみると、「ピタゴラスイッチ ミニ」(前7:30)以降の番組が、5・6歳で全体より低く、「いないいないばあっ!」(前8:25)以降の番組は2歳で高い。前者については、5・6歳が午前7時台の民放番組を全体に比べてよく見ていること(民放総計 前7:00～7:30 全体15.1%<5・6歳24%、前7:30～8:00 全体16.6%<5・6歳23%)、後者については、午前8時を過ぎ

表 11 平日 朝の主な Eテレの番組 男女年齢別視聴率

番組名	〈 〉は前年の同時時間帯の視聴率、()は前年の同番組の視聴率 (以下同様) (%)								
	全体	前年	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳	
前 6:35 にほんごであそぼ	2.4	〈3.6〉*1 (14.5)*2	2	3	3	5	1	1	
前 6:45 すずめ!キッチン戦隊 クックルン	6.2	9.3	6	7	6	9	6	4	
前 6:55 Eテレ 0655	6.2	9.3	6	7	6	9	6	4	
前 7:00 シャキーン!	12.2	15.7	11	14	15	16	12	9	
前 7:15 アニメ はなかっぱ	15.2	16.3	13	18	17	20	13	12	
前 7:25 デザインあ 5分版	15.2	〈16.3〉*3	13	18	17	20	13	12	
前 7:30 ピタゴラスイッチ ミニ	19.2	〈18.2〉*3	16	22	22	25	18	14	
前 7:35 フックブックロー	19.2	〈18.2〉*4 (17.3)*5	16	22	22	25	18	14	
前 7:45 みいつけた!	21.5	〈21.4〉 (23.4)*6	19	24	26	29	21	13	
前 8:00 おかあさんといっしょ	25.9	27.8 (27.8)*7	26	26	30	30	26	20	
前 8:25 いないいないばあっ!	20.1	20.8	21	19	30	24	19	13	
前 8:40 えいごであそぼ	14.8	〈14.5〉*8 (18.2)*9	17	13	24	18	13	9	
前 8:50 プチプチアニメ	12.0	11.0	14	10	19	15	10	8	
前 8:55 てれび絵本	12.0	〈11.0〉*10 (3.6)*11	14	10	19	15	10	8	

■は全体より統計的に高い、□は低い

*1 前年は「ピタゴラスイッチ ミニ」(3.6%) 6:35～6:40 と、「テレビ絵本」(3.6%) 6:40～6:45

*2 前年は 8:40～8:50 *3 前年は「フックブックロー」(17.3%) 7:25～7:35 *4 前年は「えいごであそぼ」(18.2%) 7:35～7:45

*5 前年は 7:25～7:35 *6 前年は 7:45～8:01 *7 前年は 8:01～8:25 *8 前年は「にほんごであそぼ」(14.5%) 8:40～8:50

*9 前年は 7:35～7:45 *10 前年は「ミニアニメ」(11.0%) 8:55～9:00 *11 前年は 6:40～6:45

表12 土曜・日曜 朝の主なEテレの番組 男女年齢別視聴率

(%)

曜日	番組名	全体	前年	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
土	前 6:35 いじめをノックアウト	0.5	0.9	1	0	0	1	1	1
	前 6:45 しぜんとあそぼ	1.4	1.4	1	2	0	2	1	2
	前 7:00 デザインあ	7.0	6.3	5	9	6	9	6	7
	前 7:15 モリゾー・キッコロ 森へいこうよ!	8.5	7.4	8	9	10	8	9	8
	前 7:30 ノーゾーのひらめき工房	12.5	12.9	12	13	13	12	15	11
	前 7:45 ビタゴラスイッチ	12.5	16.4	12	13	16	12	15	9
	前 8:00 おかあさんといっしょ土曜日	21.6	23.4	19	24	27	19	27	16
	前 8:25 ムジカ・ピッコリーノ	24.7	25.2	23	27	30	22	33	17
	前 8:35 アニメ おさるのジョージ	27.1	25.7	27	27	34	24	36	18
	前 9:00 アニメ ひつじのショーン	16.1	16.0	16	17	21	11	21	13
前 9:20 アニメ はなかつぱ	13.4	14.0	13	14	15	11	16	12	
日	前 7:00 きかんしゃトーマス	5.9	7.1	6	6	9	5	6	6
	前 7:20 アニメ おしりかじり虫	6.3	7.9	7	6	10	5	6	7
	前 7:25 みいつけた!さん	6.8	9.0	6	8	13	6	5	6

■は全体より統計的に高い、□は低い

ると幼稚園・保育園に通っている幼児の多くは家を出る⁸⁾ため、未就園児の多い2歳の視聴率が3歳以上と比べて多くなることによる。

土曜・日曜の朝の番組視聴率をみると(表12)、土曜は「アニメ おさるのジョージ」(前8:35)、その直前の「ムジカ・ピッコリーノ」(前8:25)、「おかあさんといっしょ土曜日」(前8:00)など午前8時台の番組が20%以上と高く、特に「アニメ おさるのジョージ」「ムジカ・ピッコリーノ」は2歳と4歳で30%以上と非常によく見られている。5・6歳ではそれらの番組の視聴率が10%台で全体と比べて低い。日曜の午前7時台の幼児・子どもゾーンでは、「みいつけた!さん」(前7:25)が2歳に10%を超えて見られている。

Eテレの平日夕方の主な番組視聴率をみると(表13)、午後4時から徐々に増加し、午後5時台後半の番組がよく見られている。年齢別には、2～3歳で「みいつけた!」(後5:00)から「フックブックロー」(後5:50)まで、4歳では「アニメ はなかつぱ」(後5:30)から「フックブックロー」までの番組がほぼ20%と、Eテレ

の夕方の視聴のピークになっている。5・6歳では、午後4時台後半～5時台前半の番組の視聴率が全体と比べて低く10%前後で、それ以降も13%以下にとどまる。前年まで午後6時台に放送していた「大!天才てれびくん」は、「Let's天才てれびくん」(月～木後6:20)になり、月～水は本編の後に午後6時45分からドラマやアニメのコーナーを新設したが、そのドラマやアニメのコーナーでは前年同時間帯と比べて、2歳と4歳で視聴率が増加した。

3. 録画番組とDVDの利用状況

(1) 増える録画番組・DVDの再生利用

調査では、テレビ視聴状況とともに、録画番組と市販のDVDやビデオの再生状況も同様に記入してもらっている⁹⁾。ここからは録画番組やDVDの利用状況を紹介する。

1週間に少しでも録画番組やDVDを見た幼児(週間接触者率)は84.1%で、前年(83.5%)と同程度である。しかし、長期的にみると、2000年代後半は70%台であったのが、2011

表 13 平日 夕方の主なEテレの番組 男女年齢別視聴率

(%)

番組名	全体	前年	男	女	2歳	3歳	4歳	5・6歳
後 4:00 みんなのうた	6.3	6.9	5	7	8	9	6	4
後 4:05 えいごであそぼ	6.3	6.9	5	7	8	9	6	4
後 4:15 月水金／ニャンちゅうワールド放送局 ミニ	8.1	7.9	7	9	10	10	9	5
火木／ピタゴラスイッチ ミニ	7.9	<8.7>*1	7	9	12	10	7	5
後 4:20 いないいないばあっ！	8.8	<9.1>*2	8	10	12	11	9	6
後 4:35 おかあさんといっしょ	10.8	<11.2>*3	10	12	16	13	11	7
後 5:00 みいつけた！	15.6	15.2	14	17	20	20	16	10
後 5:15 にほんごであそぼ	16.3	15.2	15	18	20	20	17	11
後 5:25 ミニアニメ	16.3	<15.2>*4	15	18	20	20	17	11
後 5:30 アニメ はなかっぱ	18.1	18.9	16	20	20	21	20	13
後 5:40 すすめ！キッチン戦隊 クックルン	17.6	18.6	15	20	19	20	20	13
後 5:50 フックブックロー	17.1	18.2	14	20	17	19	19	13
後 6:00 アニメ おじゃる丸	13.3	13.4	11	16	14	12	17	11
後 6:10 アニメ 忍たま乱太郎	12.7	12.0	10	15	12	11	16	11
後 6:20 月～木／Let's天才てれびくん *5	10.1	<7.9>*6	9	11	9	8	13	9
後 6:45 (月／ドラマ 東京特許許可局 火／アニメ ギガントシューター つかさ 水／アニメ くつだる。)	8.8	<6.3>*6	8	10	5	6	12	11
後 6:45 (火／アニメ ギガントシューター つかさ 水／アニメ くつだる。)	6.7	<4.3>*6	7	7	6	4	10	6
後 6:20 金／ビットワールド	6.7	8.4	5	8	4	5	9	7
後 6:55 月～木／Rの法則	1.9	1.7	2	2	2	1	3	2
金／Eダンスアカデミー	1.2	2.7	1	1	1	1	2	1

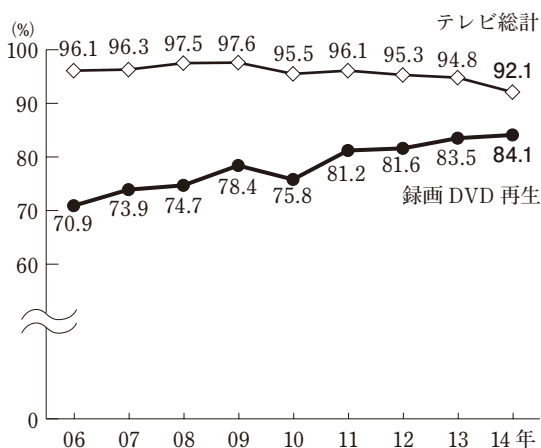
*1 前年は「デザインあ 5分版」(火木) *2 前年は後 4:20～4:36 *3 前年は後 4:36～5:00 *4 前年は「ピタゴラスイッチ ミニ」
*5 月～木後 6:20～6:45, 木後 6:20～6:55 平均 *6 前年は「大!天才てれびくん」後 6:20～6:55 ■は全体より統計的に低い

年以降は80%を超え、増加傾向が続いている(図5)。

次に再生時間をみると、1日あたりの録画DVD再生時間(利用していない幼児も含む)は

54分であった(表14)。年齢別にみると、例年、低年齢の幼児で利用時間が長い傾向があり、2歳で1時間20分と、前年に続いて1時間を超えている。

図5 テレビ総計・録画DVD再生の週間接触者率の推移



曜日別に録画DVD再生時間をみると(図6)、土曜(1時間16分)・日曜(1時間7分)はともに1時間を超え、平日(46分)と比べて長めである。土曜は前年(1時間5分)と比べて増加した。テレビ視聴時間と録画DVD再生時間を合わせた1日のトータルの視聴時間に占める割合をみると、土曜は4割を超え、平日・日曜と比べて高めである。

録画DVD再生の30分ごとの平均利用率をみると(図7)、平日よく利用されているのは午後4時～9時である。土曜・日曜は午前と夕方に利用の山があるが、日中の時間帯も5%前後と一定の利用がある。前年と比べると、土曜

表 14 録画 DVD 再生時間 (1 日, 週平均)

	全体	男	女	2 歳	3 歳	4 歳	5・6 歳	保育園児	幼稚園児	未就園児
12 年	0:46	0:49	0:42	0:58	0:48	0:44	0:36	0:46	0:40	1:00
13 年	0:52	0:55	0:49	1:05	0:50	0:46	0:50	0:51	0:46	1:14
14 年	0:54	1:02	0:46	1:20	0:51	0:49	0:47	0:49	0:50	1:21

(時間:分)

図 6 曜日別録画 DVD 再生時間とテレビ視聴時間
(1 日, 週平均)



で午前10時台, 午後4時台, 午後7時30分～8時と, 幅広い時間帯で利用が増えている。日曜は前々年から前年にかけて午前, 夕方の利用が増えていたが, 今回も前年と同程度の水準となっている。

録画DVD再生時間とテレビ視聴時間の長期推移をグラフにしたのが図8である。録画DVD再生は, 2011年まではほぼ横ばいだったが, 2012年以降は増加傾向で, 今回は前々年と比較して増加した。一方, テレビ視聴時間は前述のとおり漸減しており, テレビ視聴と録画DVD再生との時間量の差が狭まっている。デジタル録画再生機器の普及¹⁰⁾により, 録画番組やDVDなどの利用が容易になっていること, 働く母親の増加¹¹⁾により幼児の在宅時間が減少¹²⁾し, 家庭でのメディア利用に効率性が求められていることなどが背景として考えられるだろう。

(2) 多く利用している録画機器

付帯質問で, 幼児が録画番組や市販DVD, インターネット動画などを見るときに多く利用する機器を複数回答で尋ねた(図9)。最も多いのは「DVD・ブルーレイディスクプレーヤー」(61.9%)で, 続いて「デジタル録画機のハードディスク(HDD)」(48.4%), 「録画機能付きテレビ」(30.1%)が多く利用されている。「携帯電話・スマートフォン」は18.4%, 「タブレット端末」は13.2%, 「パソコン」は12.6%であった。前年と比べてタブレット端末が7.6%から13.2%へと増加した。

(3) 録画番組・DVD・動画の再生利用

同様に付帯質問で, 休日をのぞくふだんの日1日に「録画した番組」と「市販DVD(ビデオ)」「インターネット動画」をそれぞれどのくらい再生して見ているかを尋ねた(図10)。録画番組を見る幼児は, 30分未満から2時間以上まで合わせて72.0%, 市販やレンタルのDVDやビデオを見る幼児は37.5%, インターネット動画を見る幼児は32.9%と, 録画番組を見る幼児が最も多い。それぞれの再生時間をみると, 録画番組は30分以上1時間未満が31.9%と多く, インターネット動画の利用は30分未満が21.3%と多い。録画番組では30分以上の利

図7 録画DVD再生の30分ごとの平均利用率（平日・土曜・日曜）

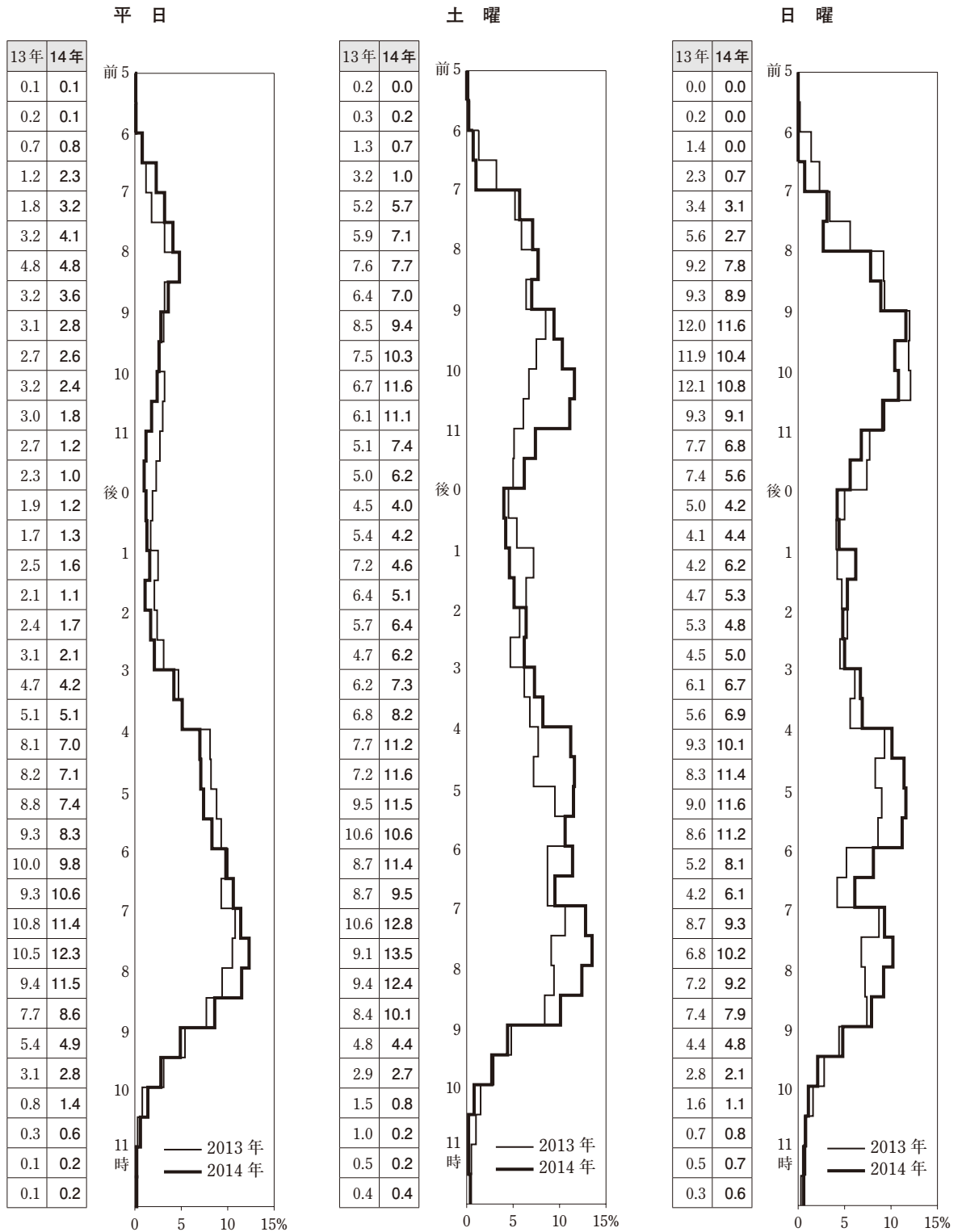


図8 テレビ視聴時間と録画DVD再生時間の推移（1日、週平均）

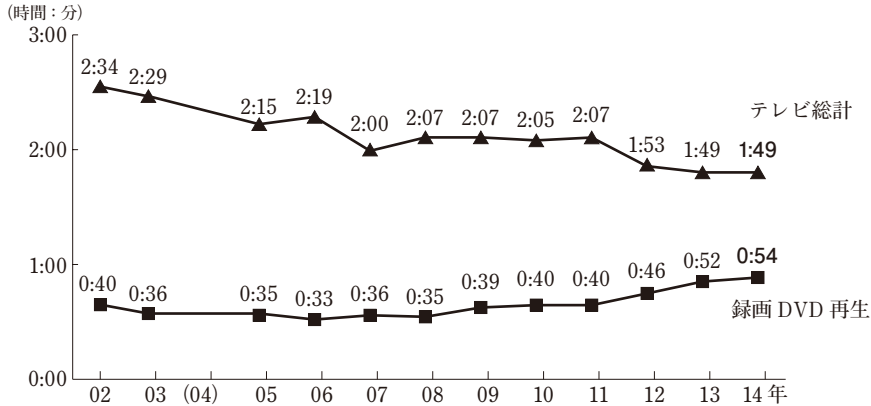


図9 録画番組・市販DVD・インターネット動画の再生機器（複数回答）

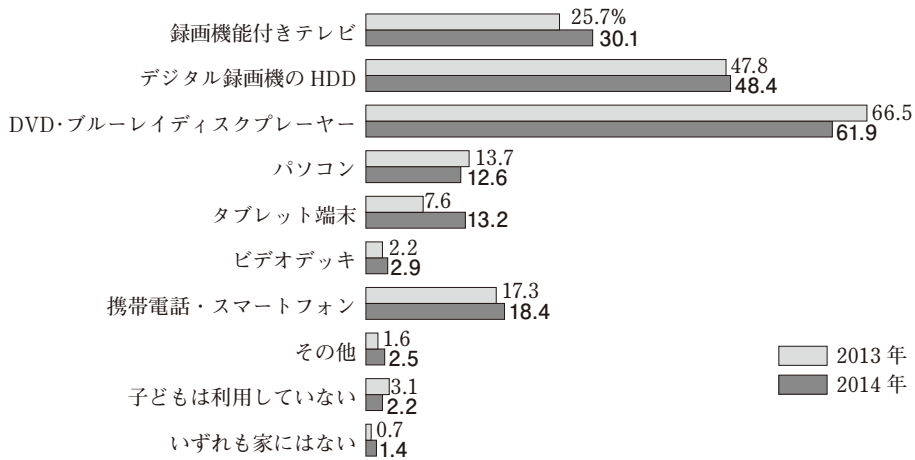
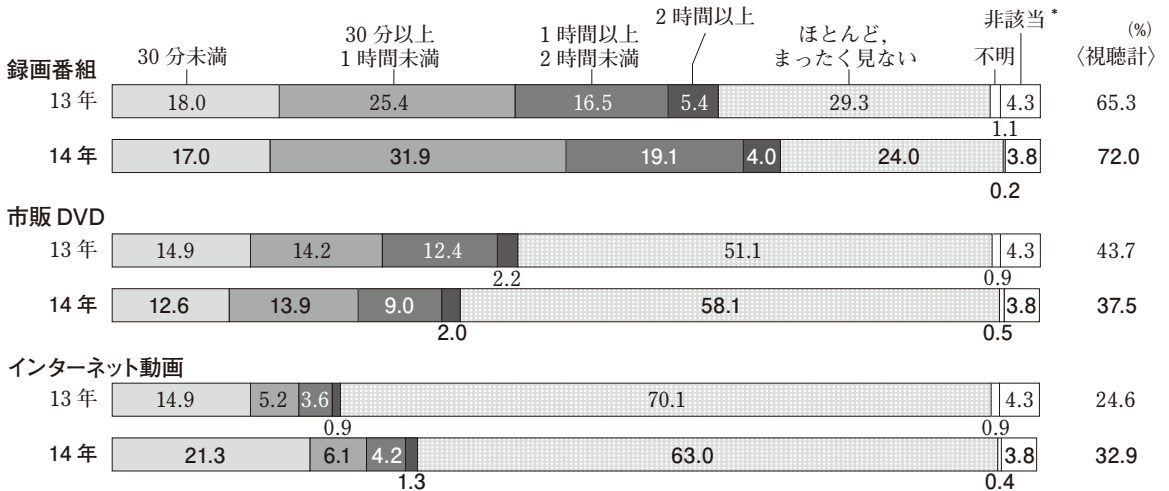


図10 録画番組・市販DVD・インターネット動画の再生時間の分布



*非該当は録画再生機器が「家にはあるが、子どもは利用していない」と「いずれも家にはない」の回答

用者が多いのに対し、インターネット動画は30分未満の利用が多く、視聴する映像の種類によって視聴時間に違いがある。

前年と比べると、30分未満から2時間以上まで合わせた、録画番組を見る幼児が65.3%から72.0%、インターネット動画を見る幼児が24.6%から32.9%へと増加した。逆に市販DVDを見る幼児は、43.7%から37.5%に減少した。

まとめ

2012年に幼児のテレビ視聴時間が初めて2時間を切り、前年、今回とも1時間49分と視聴時間回復の兆候はみられていない。そうした中でも、民放の新番組が人気となり、平日夕方の視聴率を大きく増加させるという現象もみられた。また、テレビ視聴時間減少の一方で、録画DVD再生時間は着実に増加し、今回54分とはほぼテレビ視聴の半分という時間量にまでなった。

デジタル録画再生機器をはじめとした映像視聴媒体の多様化とその普及、働く母親の増加といったメディアや社会の状況が続く限り、今回報告した幼児のテレビ視聴の傾向は今後も大きくは変わらないだろう。こうした中、幼児のメディア利用をより実態に即して把握するため、テレビ視聴だけでなく、録画番組の再生状況やそれ以外の映像コンテンツの利用状況を調べるウェブ調査を実施した。今後、本誌において、この調査結果をもとに、幼児の生活の中でのメディアの使われ方を総合的に報告する予定である。

(わたなべ ようこ)

注：

- 1) 西久美子 / 塚本恭子 / 吉藤昌代 / 行木麻衣「テレビ・ラジオ視聴の現況～2014年6月全国個人視聴率調査から～」『放送研究と調査』2014年9月号
- 2) テレビ視聴、および録画番組や市販のDVDなどの再生について、調査を開始した1990年から2012年まで「家庭内での視聴のみ」としていたが、デジタル録画機器の普及を背景に、2013年から「家族で移動中(車中など)の視聴も含む」こととした。幼稚園や保育園での視聴は、これまでどおり含めていない。
- 3) 白石信子「幼児で高い夕方のテレビ視聴～2000年7月幼児視聴率調査から～」『放送研究と調査』2000年11月号など
- 4) テレビ東京系列で、2014年1月8日から放送を開始。当初は水曜午後7時の放送だったが、2014年4月4日から金曜午後6時30分に放送。
- 5) 平日午後7時台の子ども向けアニメの本数は、2012年7本、2013年6本、2014年3本と減少した。
- 6) 2013年は日曜午前5:30～8:30に中継。午前7:30～8:30の子ども向け定時番組が休止となった。
- 7) 上位の番組には、1990年代後半は50%以上、2000年代は2009年まで40%以上の番組があった。2007年のみ、最も見られた朝日「Yes! プリキュア5」の視聴率が34.8%と40%に届かなかった。
- 8) 「幼児生活時間調査」(2013年3月、東京50キロ圏に住む0歳(4か月)～就学前の幼児1,500人を調査対象とし、NHK放送文化研究所が実施)によると、午前8時30分には、幼稚園児の45%、保育園児の73%が在園している。
- 9) 調査票での選択肢は「ビデオの再生」(～2008)、「ビデオ・DVDの再生」(2009～2010)、「ビデオ・HDD・DVDの再生」(2011・2012)、「録画番組やDVDの再生」(2013～)と変更している。報告上は2012年まで「ビデオ再生」、2013年から「録画DVD再生」としている。
- 10) 「全国放送サービス接触動向調査」(2014年6月、全国7歳以上3,600人を調査対象とし、NHK放送文化研究所が実施)によると、HDD・DVD・ブルーレイディスクなどデジタル録画機の所有率は73.1%である。
- 11) 付帯質問では母親の職業も尋ねている。「パート・アルバイト」「勤め人」「自営」を合わせた有職の母親は、2005年27.1%、2010年35.3%、2014年46.0%と増加している。
- 12) 「幼児生活時間調査」(調査概要は注8)参照)によると、幼児全体の起床在宅時間は、2003年7時間37分から2013年6時間48分(いずれも月曜)と50分程度減少している。